

原子力規制委員会記者会見録

- 日時：令和4年1月5日（水）
- 場所：原子力規制委員会庁舎 13階B・C・D会議室
- 対応：更田委員長

<質疑応答>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから1月5日の原子力規制委員会定例会見を始めます。

皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属とお名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。質問のある方は手を挙げてください。

ヤマダさんお願いします。

○記者 新潟日報のヤマダです。明けましておめでとうございます。よろしくお願いいたします。

まずKKの特重の審査の進捗状況について、受け止めをお願いいたします。

あともう1点、東電柏崎刈羽原発で年末に6、7号機の消火配管の手抜き溶接工事があったということが明らかになりました。それについての受け止めと言いますか、どのような問題だと見ているかというのを教えていただけますでしょうか。お願いいたします。

○更田委員長 明けましておめでとうございます。一つ目の柏崎刈羽原子力発電所の特定重大事故等対処施設、特重施設ですけれども、これは、しばらくすると現地調査に入ることになります。

今のところ、特にまだ大きな論点の特定であるとか、委員会のレベルでその論点について議論をするという段階まではいっていませんけれども、ただ、BWRの特定重大事故等対処施設についても、審査側の経験は重ねてきていますので、今後、東京電力の設計方針について、さらに聴取して、それから、何よりもやっぱり現地を見て、それからのことになるんだろうというふうに思います。

それから、柏崎刈羽の消火配管ですけれども、これについてはまだ正直なところ、詳しい説明を私のところで受けている段階にはまだ至っていません。

ただ、消火系配管の溶接等々の不備のようなものは、海外の事例等もあることから、一定の関心は持っています。

ただ、先ほど申し上げたように、まだ事実関係について詳しい説明を受けていませんので、今、まだ特に申し上げるような見解を持ってはおりません。

○記者 ありがとうございます。

まず、特重のことについてなんですけれども、先ほどのちょっとブリーフィングでも事務のほうにお聞きはしたのですけれども、先に検査と審査両方といいますか、KKでは二つ進んでいますけれども、先にこの審査の合格が先に終わるとということというのは考

えられるのでしょうか。

- 更田委員長 今の段階で、その、考えられるか、これは考えられる、これは考えられないというような、何かその判断らしきものがあるわけではありませんし、いずれにせよ、その特定重大事故等対処施設についても、まさに委員会で議論をしていく段階になれば、委員会で議論していくことになるだろうと思います。

御承知のように、本体施設や核物質防護に関わる案件において、核燃料の移動を禁じるという状態になっていますけれども、その検査区分がそういった状態にあるということと、特定重大事故等対処施設の基本設計について説明を受けるということに関しては、特定の、特別の関連があるわけではないので、特重の審査については、特重の審査として淡々と進めているというのが現状だと思います。

- 記者 ありがとうございます。

ちょっと重ねてなんですが、今回の消火配管の溶接の不備ですが、それが例えば、いずれかの検査、あるいは審査、いずれかに影響を及ぼすことというのはありますか。

- 更田委員長 そうですね、ちょっと余りに仮定の話ではあるんだけど、例えば調達の管理だとかにおいて、非常に基本的な不備があるというようなことがあれば、全く関連が生じないということはないでしょうけれども。

繰り返しになりますけど、今の時点でその事実関係について詳しい説明を受けている段階ではありませんので、関連が有る無しについても、まだまだこれからだろうというふうには思います。

- 記者 どうもありがとうございました。

- 司会 ほかに御質問はございますでしょうか。

では、クドウさんお願いします。

- 記者 電気新聞のクドウです。今年もよろしく願いいたします。

ちょっと新年っぽい話題かどうか分かりませんが、少し先を見据えた話として、小型モジュール炉、SMRについてお聞きしたいと思います。

この先SMRの原子炉設置許可の申請が今にでもなされそうだという状況が、随分先になるかと思いますが生じた場合、委員会としてどういう対応が必要になるかというのを整理しておくのは、重要なことなのかなと思っています。

もちろん昨年秋のCNO会議（主要原子力設置者の原子力部門の責任者との意見交換会）で被規制者側からも表明があったように、現時点で具体的な導入の計画があるというような状況ではないのですが、仮に許可の申請が出てきそうだという状況になったとして、検討しなければならないことであったり、これが足りないなというようなもの、そういったところの整理が進んでいるのかどうか、それとも、そういった検討というのは、やっぱり事業者から具体的な導入の方針であったり、計画の表明が先だというお考えなのか、ちょっとお考えをお聞かせいただければと思います。

○更田委員長 これは一般論ではありますけれども、SMRに限らず、新しい技術の導入がなされるということであれば、規制当局として、ある程度は先回りをして、しっかり勉強しておく、検討しておくということは必要だと思っています。ただ、それは導入の確からしさがどのくらいかということと関連をします。ですから、ちょっと定性的な申し上げ方しかできないんですけども、ただ具体的にお尋ねのSMRについて言えば、IAEAのSMR導入に係る規制当局のフォーラムには私たちも参加をするようにしていて、技術動向に対しては一定の関心は払っていかうと思っています。

SMRに限らずATF、Accident tolerant fuelですけど、事故耐性燃料等々は米国やヨーロッパ等でも開発が進められていますし、日本も事故の当事国として、こういったものの開発には熱心であるべきだと思っていますけれども、こういったものに関しても規制当局としては一定の関心を持って情報の収集であるとか、それから規制が大きく備えなければならないかどうかというのと、これは例えばSMRについても様々な炉型がありますから、それが水炉なのか、あるいは水以外の冷却材を用いるのか。それから、多くのSMRの提案の中には5%を超える初期濃縮度の燃料を使用すると。そうすると、これは規制だけではなくて、保障措置であるとか、様々な観点から5%を超える燃料の使用がどうであるのか。当然そのためには、フロントエンド、それからバックエンドとの関連が出てきますから、そういった意味で、どういった炉型が、より現実味を持ってくるのかというのは、重要なポイントだろうというふうには思います。

SMR、ガス炉もあれば、水炉もありますし、それから例えば今で言うPAZ（予防的防護措置を準備する区域）に相当するものを敷地内にとどめてしまうような提案もあるわけで、そうすると、規制の考え方そのものに大きな変化を迫るものではあるからこそ、私たちも、今のところ電気事業者からは一切SMRという声は聞かれないですけども、ただ、各国がこれだけ各国の規制当局共に真剣に取り組んでいますので、私たちも知識レベルとしては、これに後れを取らないようにしておこうというふうには思っています。

○記者 ありがとうございます。かなり突飛な話になるかもしれないですけども、例えばSMRの個別の炉型について、型式証明というか、設計の認証をするというようなことは、規制委員会の視野に入っていないでしょうか。

○更田委員長 それは段階ですよね。本当に導入が現実味を帯びてきたらば、SMRと、それから型式認証というのはある意味相性のいい制度ではあるので。というのは、SMRというのは、それだけ数が出ないと現実味を持たない技術ですので、SMRの導入が本当に産業界から公式に表明をされて、ある程度の年次をもって導入がされるようであれば、規制の仕組みにおいても幾つかの新しいアプローチであるからこそ、今、米国、カナダを中心にSMR導入に向けてどういう規制の在り方が必要かという議論が進められてるわけで、私たちもそれに全く関心を持たないでいると、いざ本当に必要になったときに手後れということになりますから、そういった議論に関しては耳も傾けているし、議論にも一定程度参加しているというのは、その理由ですね。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほか御質問ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

ヤマダさん2回目なので、ヤマダさんで最後にしたいと思えますけれども、よろしいですか。では、ヤマダさん、お願いします。

○記者 度々すみません。新潟日報社のヤマダです。

KKの手抜き配管工事についてなんですけれども、先ほど消火配管の不備については海外での事例もあるというふうにおっしゃって、例えばどういう事例を想定しておっしゃったのかについて、参考までに教えていただきたいのが1点と、あと今回は消火配管の不備といいますか、工事の不備だったんですけれども、こういう事例があると、重要な配管についてはどうなのかなというふうな懸念がずっと地元では出てきております。その点について、もちろんチェック体制は違うとは思いますが、何かお考えがあったら教えていただければと思います。

○更田委員長 まず一つ目については、頭に浮かんだのは、これは配管そのものではないんですけど、消火器系に関して問題が起きたのは米国のボーグルという新しい炉、新設炉なんですけれども、AP1000だったと思いますが、新設炉で消火器系に関する問題があって、今、建設途中ですけど手直しにかかっているという状況が浮かんだので申し上げました。

それからもう一つは、これも先ほど既に申し上げましたけれども、個別の配管だけの問題であるのか、それとも東京電力の調達管理、施工管理に根差す根深い問題があるのかというところは分かれ目ではあろうというふうに思います。

○記者 ありがとうございます。

○司会 それでは本日の会見は以上としたいと思います。ありがとうございます。

—了—